

## 令和4年度 佐賀大学2次試験後期日程(数学問題)

理工・農学部 令和4年3月12日

- 理工学部は, [1] ~ [4] 数I・II・III・A・B (120分)
- 農学部は, [1], [2], [5], [6] 数I・II・A・B (120分)

[1] 座標平面上において, 原点  $O(0, 0)$  を中心とする半径2の円を  $C$  とし, 点  $P_1(1, 0)$ ,  $P_2(-1, 0)$  を中心とする半径1の円をそれぞれ  $C_1$ ,  $C_2$  とする. さらに, 円  $C_3$  は  $C$  に内接して,  $C_1$  と  $C_2$  に外接し,  $C_3$  の中心を  $P_3$  とするとき, その  $y$  座標が正であるとする. 次の問に答えよ.

- (1) 円  $C_3$  の半径を  $r$  とする.  $\triangle OP_1P_3$  が直角三角形になることを用いて,  $r$  の値を求めよ.
- (2) 円  $C_4$  は  $C$  に内接して,  $C_1$  と  $C_3$  に外接し, さらに  $C_4$  の中心の  $x$  座標が正であるとする.  $C_4$  の中心を  $P_4$  とし,  $\angle P_1OP_4$  を  $\alpha$ ,  $\angle P_3OP_4$  を  $\beta$  とおく.  $C_4$  の半径を  $s$  とするとき,  $\cos \alpha$  と  $\cos \beta$  を  $s$  を用いて表せ.
- (3) (2) の  $\alpha$ ,  $\beta$ ,  $s$  について,  $\cos^2 \alpha + \cos^2 \beta$  と  $s$  の値を求めよ.

[2]  $a$  を1以上9以下の整数とする. 箱の中に

- 20ポイントのくじ2本
- 10ポイントのくじ  $a$  本
- 5ポイントのくじ8本
- 0ポイントのくじ  $(10 - a)$  本

の合計20本のくじを入れてよくかき混ぜる. この箱の中から同時に引いた2本のくじのポイントの和を獲得ポイントとするとき, 次の問に答えよ.

- (1)  $a = 5$  のとき, 獲得ポイントが正である確率を求めよ.
- (2)  $a = 5$  とする. 獲得ポイントが20であったとき, 引いたくじの中に10ポイントのくじが含まれている確率を求めよ.
- (3)  $a$  を1以上9以下の整数とするとき, 獲得ポイントが20である確率を  $a$  を用いて表せ. さらに, この確率が最小となる  $a$  の値をすべて求めよ.

- 3**  $r$  を正の定数とする. 座標平面上を運動する点  $P$  の座標  $(x, y)$  が, 時刻  $t$  の関数として

$$x = 1 - r \cos t, \quad y = r(\sin t - t) \quad (0 \leq t \leq 2\pi)$$

で表されるとき, 次の問に答えよ.

- (1) 点  $P$  の速度  $\vec{v}$  と加速度  $\vec{a}$  を求めよ.
- (2) (1) の  $\vec{a}$  の大きさ  $|\vec{a}|$  は一定であることを示せ.
- (3)  $t = \pi$  から  $t = \frac{3}{2}\pi$  までの間に点  $P$  が動く道のりを求めよ.

- 4**  $\alpha = \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}i}{4}$  とするとき, 次の問に答えよ.

- (1) 整数  $n$  について,  $\alpha^n$  を極形式で表せ.
- (2)

$$|\alpha^n| > \frac{1}{32}$$

を満たす正の整数  $n$  のうち, 最大のものを  $n_1$  とする.  $n_1$  の値を求めよ.

- (3)  $\alpha$  の共役複素数を  $\bar{\alpha}$  とし

$$|\alpha^n + (\bar{\alpha})^n| > \frac{1}{16}$$

を満たす正の整数  $n$  のうち, 最大のものを  $n_2$  とする.  $n_2$  の値を求めよ.

**5** 次の問に答えよ.

(1) 一般項が  $S_n = 2^n n$  で表される数列  $\{S_n\}$  について

$$S_{n+1} - S_n = 2^n P_1(n) \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

を満たす整式  $P_1(x)$  を求めよ.

また, この  $P_1(x)$  について

$$\sum_{k=1}^n 2^k P_1(k) = 2^n P_2(n) + a \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

を満たす整式  $P_2(x)$  と定数  $a$  の値を求めよ.

(2)

$$\sum_{k=1}^n 2^k k = 2^n Q(n) + b \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

を満たす整式  $Q(x)$  と定数  $b$  の値を求めよ.

(3) 一般項が  $T_n = 2^n n^2$  で表される数列  $\{T_n\}$  について

$$T_{n+1} - T_n = 2^n R_1(n) \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

を満たす整式  $R_1(x)$  を求めよ.

さらに

$$\sum_{k=1}^n 2^k k^2 = 2^n R_2(n) + c \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

を満たす整式  $R_2(x)$  と定数  $c$  の値を求めよ.

**6** 関数  $x^2 - 3x$  の不定積分の1つを  $f(x)$  とし, 関数  $g(t)$  を

$$g(t) = f(3t + 3) - f(t)$$

で定める. 次の問に答えよ.

(1)  $g(t)$  を  $t$  の整式として表せ.

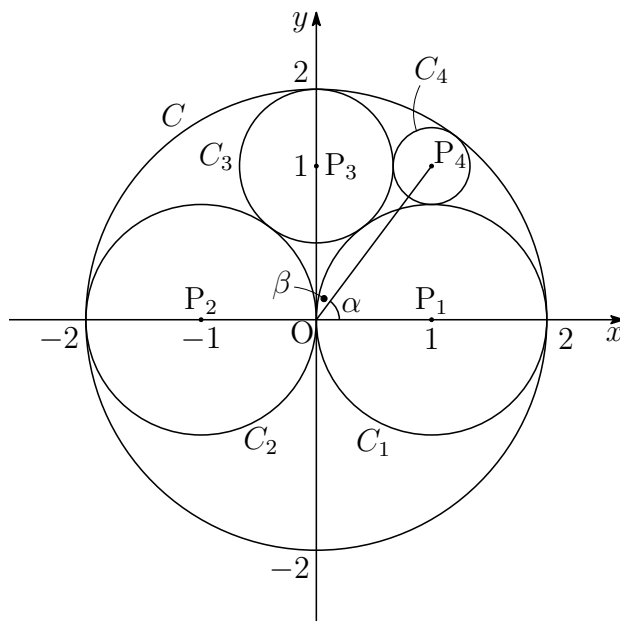
(2) 関数  $g(t)$  の増減を調べ, 極値を与える  $t$  の値を求めよ.

(3) 方程式  $g(t) = 0$  のすべての実数解を求めよ.

## 解答例

- 1 (1)  $C_3$  の半径が  $r$  であるから  $OP_3 = 2 - r$ ,  $P_1P_3 = 1 + r$   
 $OP_1 = 1$  であるから,  $\triangle OP_1P_3$  に三平方の定理を適用すると

$$1^2 + (2 - r)^2 = (1 + r)^2 \quad \text{これを解いて} \quad r = \frac{2}{3}$$



- (2)  $C_4$  の半径が  $s$  であるから  $OP_4 = 2 - s$ ,  $P_1P_4 = 1 + s$   
 $OP_1 = 1$  であるから,  $\triangle OP_1P_4$  に余弦定理を適用すると

$$\cos \alpha = \frac{1^2 + (2 - s)^2 - (1 + s)^2}{2 \cdot 1 \cdot (2 - s)} = \frac{2 - 3s}{2 - s}$$

- (1) の結果から,  $OP_3 = 2 - \frac{2}{3} = \frac{4}{3}$ ,  $P_3P_4 = \frac{2}{3} + s$   
 $\triangle OP_3P_4$  に余弦定理を適用すると

$$\cos \beta = \frac{\left(\frac{4}{3}\right)^2 + (2 - s)^2 - \left(\frac{2}{3} + s\right)^2}{2 \cdot \frac{4}{3} \cdot (2 - s)} = \frac{2 - 2s}{2 - s}$$

- (3)  $\alpha + \beta = \frac{\pi}{2}$  より,  $\cos^2 \alpha + \cos^2 \beta = 1$  であるから

$$\left(\frac{2 - 3s}{2 - s}\right)^2 + \left(\frac{2 - 2s}{2 - s}\right)^2 = 1 \quad \text{ゆえに} \quad (s - 1)(3s - 1) = 0$$

$$\cos \alpha > 0, \cos \beta > 0 \text{ に注意すると} \quad s = \frac{1}{3}$$

2 (1) 獲得ポイントが0である確率は  $\frac{{}_5C_2}{{}_{20}C_2} = \frac{5 \cdot 4}{2 \cdot 1} \cdot \frac{2 \cdot 1}{20 \cdot 19} = \frac{1}{19}$

求める確率は、この余事象の確率であるから  $1 - \frac{1}{19} = \frac{18}{19}$

(2) 20ポイントのくじ, 0ポイントのくじをそれぞれ1本ずつ引く確率は

$$\frac{{}_2C_1 \times {}_5C_1}{{}_{20}C_2} = \frac{2 \times 5}{190} = \frac{1}{19}$$

10ポイントのくじを2本引く確率は

$$\frac{{}_5C_2}{{}_{20}C_2} = \frac{10}{190} = \frac{1}{19}$$

よって、求める条件付き確率は  $\frac{\frac{1}{19}}{\frac{1}{19} + \frac{1}{19}} = \frac{1}{2}$

(3) (i)  $a = 1$  のとき

20ポイントのくじ, 0ポイントのくじをそれぞれ1本ずつ引く確率

$$\frac{{}_2C_1 \times {}_9C_1}{{}_{20}C_2} = \frac{2 \times 9}{190} = \frac{9}{95}$$

(ii)  $a \geq 2$  のとき

「20ポイントのくじ, 0ポイントのくじをそれぞれ1本ずつ引く」または「10ポイントのくじを2本引く」確率

$$\frac{{}_2C_1 \times {}_{10-a}C_1}{{}_{20}C_2} + \frac{{}_aC_2}{{}_{20}C_2} = \frac{2 \times (10 - a) + \frac{a(a-1)}{2}}{190} = \frac{a^2 - 5a + 40}{380}$$

(i), (ii) より, (ii) の結果は,  $a = 1$  のときも成立するから, 求める確率は

$$\frac{a^2 - 5a + 40}{380}$$

$a^2 - 4a + 40 = \left(a - \frac{5}{2}\right)^2 + \frac{135}{4}$  より, この確率が最小となる  $a$  の値は

$$a = 2, 3$$

**3** (1)  $x = 1 - r \cos t$ ,  $y = r(\sin t - t)$  より ( $0 \leq t \leq 2\pi$ )

$$\begin{aligned}\vec{v} &= \left( \frac{dx}{dt}, \frac{dy}{dt} \right) = r(\sin t, \cos t - 1), \\ \vec{\alpha} &= r(\cos t, -\sin t)\end{aligned}$$

(2) (1)の結果から ( $r > 0$ )  $|\vec{v}| = r$  よって,  $r$  は一定である.

(3) (1)の結果から

$$|\vec{v}|^2 = r^2\{\sin^2 t + (\cos t - 1)^2\} = 2r^2(1 - \cos t) = \left(2r \sin \frac{t}{2}\right)^2$$

求める道のりを  $L$  とすると

$$\begin{aligned}L &= \int_{\pi}^{\frac{3}{2}\pi} |\vec{v}| dt = \int_{\pi}^{\frac{3}{2}\pi} 2r \sin \frac{t}{2} dt \\ &= -4r \left[ \cos \frac{t}{2} \right]_{\pi}^{\frac{3}{2}\pi} = -4r \left( \cos \frac{3}{4}\pi - \cos \frac{\pi}{2} \right) = 2\sqrt{2}r\end{aligned}$$

$$\boxed{4} \quad (1) \quad \alpha = \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}i}{4} \text{ より}$$

$$\alpha = \frac{1}{\sqrt{2}} \left( \frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i \right) = \frac{1}{\sqrt{2}} \left( \cos \frac{\pi}{6} + i \sin \frac{\pi}{6} \right)$$

したがって

$$\alpha^n = \left( \frac{1}{\sqrt{2}} \right)^n \left( \cos \frac{n\pi}{6} + i \sin \frac{n\pi}{6} \right) \quad (*)$$

$$(2) \quad (1) \text{ の結果から } |\alpha^n| = \left( \frac{1}{\sqrt{2}} \right)^n, \quad |\alpha^n| > \frac{1}{32} \text{ より}$$

$$\left( \frac{1}{\sqrt{2}} \right)^n > \frac{1}{32} \quad \text{ゆえに} \quad \left( \frac{1}{2} \right)^{\frac{n}{2}} > \left( \frac{1}{2} \right)^5$$

$$\text{したがって } \frac{n}{2} < 5 \quad \text{すなわち} \quad n < 10$$

これを満たす最大の  $n$ , すなわち,  $n_1$  は  $n_1 = 9$

$$(3) \quad (*) \text{ より } \alpha^n + (\bar{\alpha})^n = \alpha^n + (\bar{\alpha}^n) = 2|\alpha^n| \cos \frac{n\pi}{6}$$

$$|\alpha^n + (\bar{\alpha}^n)| > \frac{1}{16} \text{ より}$$

$$2|\alpha^n| \left| \cos \frac{n\pi}{6} \right| > \frac{1}{16} \quad \text{ゆえに} \quad |\alpha^n| \left| \cos \frac{n\pi}{6} \right| > \frac{1}{32}$$

(2) の結果から, 上式を満たす正の整数  $n$  の必要条件は  $n \leq 9$   
したがって, 次式を満たす最大の正の整数  $n$  を求めればよい.

$$\left( \frac{1}{\sqrt{2}} \right)^n \left| \cos \frac{n\pi}{6} \right| > \frac{1}{32} \quad (1 \leq n \leq 9) \quad (**)$$

$n = 9$  のとき, (\*\*) の左辺は 0 となり, 不適.

$n = 8$  のとき, (\*\*) の左辺が, 次のように (\*\*) の右辺と等しいから不適.

$$\left( \frac{1}{\sqrt{2}} \right)^8 \times \frac{1}{2} = \frac{1}{32}$$

$n = 7$  のとき, (\*\*) の左辺は, 次のようになり, (\*\*) を満たす.

$$\left( \frac{1}{\sqrt{7}} \right)^7 \times \frac{\sqrt{3}}{2} = \frac{\sqrt{6}}{32}$$

(\*\*) を満たす最大の  $n$ , すなわち,  $n_2$  は  $n_2 = 7$

5 (1)  $S_n = 2^n n$  より

$$\begin{aligned} S_{n+1} - S_n &= 2^{n+1}(n+1) - 2^n n \\ &= 2^n \{2(n+1) - n\} = 2^n(n+2) \end{aligned}$$

上式より  $P_1(x) = x + 2$

また, この  $P_1(x)$  について

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n 2^k P_1(k) &= \sum_{k=1}^n (S_{k+1} - S_k) = S_{n+1} - S_1 \\ &= 2^{n+1}(n+1) - 2^1 \cdot 1 = 2^n(2n+2) - 2 \end{aligned}$$

上式より  $P_2(x) = 2x + 2, a = -2$

(2)  $2^k k = 2^k \{P_1(k) - 2\}$  より

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n 2^k k &= \sum_{k=1}^n 2^k \{P_1(k) - 2\} \\ &= \sum_{k=1}^n 2^k P_1(k) - 4 \sum_{k=1}^n 2^{k-1} \\ &= 2^n(2n+2) - 2 - 4 \cdot \frac{2^n - 1}{2 - 1} \\ &= 2^n(2n - 2) + 2 \end{aligned}$$

上式より  $Q(x) = 2x - 2, b = 2$

(3)  $T_n = 2^n n^2$  より

$$\begin{aligned} T_{n+1} - T_n &= 2^{n+1}(n+1)^2 - 2^n n^2 \\ &= 2^n \{2(n+1)^2 - n^2\} = 2^n(n^2 + 4n + 2) \end{aligned}$$

上式より  $R_1(x) = x^2 + 4x + 2$

$k^2 = k^2 + 4k + 2 - 4(k+2) + 6 = R_1(k) - 4P_1(k) + 6$  であるから

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n 2^k k^2 &= \sum_{k=1}^n 2^k R_1(k) - 4 \sum_{k=1}^n 2^k P_1(k) + 6 \sum_{k=1}^n 2^k \\ &= \sum_{k=1}^n (T_{k+1} - T_k) - 4 \sum_{k=1}^n (S_{k+1} - S_k) + 6 \sum_{k=1}^n 2^k \\ &= T_{n+1} - T_1 - 4(S_{n+1} - S_1) + 6 \cdot \frac{2(2^n - 1)}{2 - 1} \\ &= 2^{n+1}(n+1)^2 - 2 - 4\{2^{n+1}(n+1) - 2\} + 6(2^{n+1} - 2) \\ &= 2^n(2n^2 - 4n + 6) - 6 \end{aligned}$$

よって  $R_2(x) = 2x^2 - 4x + 6, c = -6$



- 6 (1) 関数  $x^2 - 3x$  の不定積分の 1 つが  $f(x)$  であるから

$$f(x) = \int (x^2 - 3x) dx = \frac{1}{3}x^3 - \frac{3}{2}x^2 + C \quad (C \text{ は積分定数})$$

したがって

$$\begin{aligned} g(t) &= f(3t+3) - f(t) & (*) \\ &= \frac{1}{3}(3t+3)^3 - \frac{3}{2}(3t+3)^2 + C - \left( \frac{1}{3}t^3 - \frac{3}{2}t^2 + C \right) \\ &= \frac{26}{3}t^3 + 15t^2 - \frac{9}{2} \end{aligned}$$

- (2) (1) の結果から  $g'(t) = 26t^2 + 30t = 2t(13t + 15)$

したがって,  $g(t)$  の増減表は

$t$	...	$-\frac{15}{13}$	...	0	...
$g'(t)$	+	0	-	0	+
$g(t)$	↗	極大	↘	極小	↗

よって, 極値を与える  $t$  の値は  $t = -\frac{15}{13}, 0$

- (3) (\*) より,  $3t + 3 = t$ , すなわち,  $t = -\frac{3}{2}$  のとき,  $g(t) = 0$  であるから,  $g(t)$  が  $2t + 3$  を因数にもつことに注意して

$$g(t) = \frac{1}{6}(2t+3)(26t^2+6t-9)$$

$g(t) = 0$  の解は次のようになる. よって, 求める実数解は

$$t = -\frac{3}{2}, \frac{-3 \pm 9\sqrt{3}}{26}$$